

# 香取遺産

vol.150

## ― 初夢と宝船 ― 市内の弁財天と毘沙門天

お正月といえば、宝船に乗った七福神を思い描くのではないでしょうか。七福神は、室町時代にその原型ができたといわれ、江戸時代に庶民の間に広まりました。

大黒天、弁財天、毘沙門天、福祿寿、寿老人、恵比寿、布袋の七福神が宝船に乗った絵は、皆さんにもなじみ深いものと思います。この絵には、「長き夜の 遠の眠りの皆目覚め 波乗り舟の 音のよきかな」という回文が書かれています。この絵を、元旦の夜に枕の下に入れて眠ると、宝船に乗った七福神が穢れや悪夢を運び去ってくれます。すると、良い初夢を見ることができるといわれています。ちなみにこの絵について民俗学者の折口信夫は、夢違えの呪符であると述べています。

市内で七福神を探してみると、弁財天と毘沙門天が見つかりました。その内のいくつかを紹介いたします。まず、弁財天ですが、佐原地区では、北横宿の観照院が弁財天を本尊としています。寺伝に元和8年(1622)の開山とあります。上宿の法界寺では、過去の豪雨災害で弁財堂が壊れてしまい、今は普段立ち入れない庫裏の側で、石の祠にお祀りされています。法界寺は天正11年(1583)開山と伝わる古刹です。扇島地区の長泉寺にも弁財天宮があり、鳥居と



社殿の間に弁天池もあります。長泉寺は寛永2年(1625)の創建と伝わっています。更に、府馬地区には巖島神社が鎮座しています。弘治2年(1556)に琵琶湖の竹生島から弁財天を勧請創建したと伝わっています。昔日の境内は府馬堰の水面に浮かび、府馬八景の一つでした。

次に、毘沙門天ですが、神生地区の新福寺に毘沙門堂が残っています。3間四方で床は軛と呼ばれる瓦敷きの立派なお堂です。新福寺は足利尊氏の弟に当たる直義を開基とすると寺伝にある古刹です。津宮地区の毘沙門堂は、香取神宮の北方鎮護を担ったと考えられています。建立時期は不明で、寛文年間(1661〜1672)に焼失しましたが、享保6年(1711)に再興されました。大倉地区の側高神社には多聞天社があります。多聞天は毘沙門天の別称です。

今年は1月13日(日)に多聞天社前での年番引継ぎ行事の後、奇祭「ひげなで祭」が行われます。

岡生涯学習課

☎11224



▲長泉寺の弁財天



▲津宮の毘沙門堂



▲府馬の巖島神社

